

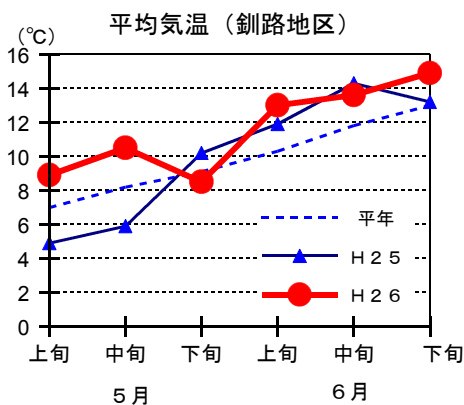
平成二六年産サイレージ （一番草）について

一番草の生育・収穫期の気象

平成二六年五月は平年より気温が高く、低温で日照不足だった平成二五年と比較し、牧草生育には好条件でした。

しかし、牧草収穫が始まる六月中旬には降水量が多くなりました。そのため、①収穫開始が遅れ、刈り遅れのほ場が出た、②不安定な天候で収穫し、高水分サイレージとなった、などが想定されます。

六月下旬からは降水量も少なく、牧草収穫は順調に進んだ事と思います。



サイレージ（一番草）分析値より

下図は粗飼料分析値（ホクレン受付分）各項目の平均です。水分は七七・六%と高めです。

高水分での調製は酪酸発酵しやすいので注意が必要です。

NDF（セイン含量）が七〇・四%と高いため、乾物摂取量の低下や選り食いなどの可能性があります。

TDN（栄養価）は例年より高めの傾向です。

酪酸は値のバラツキを示す箱ひげ図で示しました。酪酸は不良発酵の指標のひとつで、目標値は〇・二%以下です。平成二六年産は〇・一・三%と、例年よりも値の幅が大きくなっています。

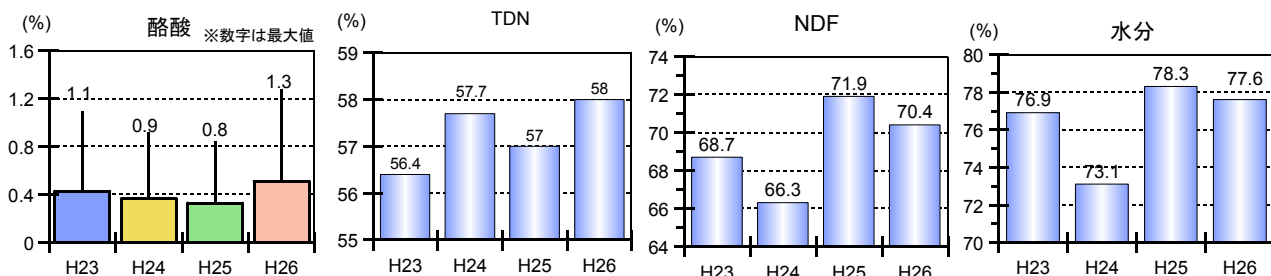
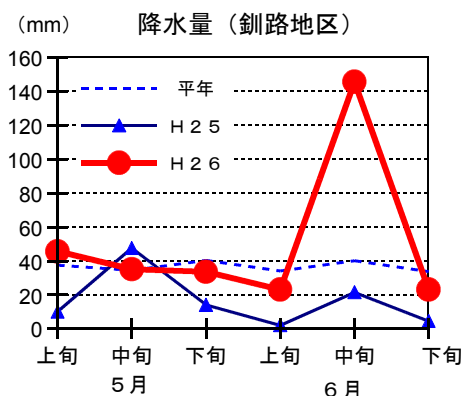


図 粗飼料分析値（ホクレン受付分）の年次毎推移
（n数：H23=25、H24=123、H25=61、H26=63）

サイレージ給与の留意点

○粗飼料分析をしよう！
使用するサイレージの粗飼料分析を行い、栄養成分や発酵品質を確認しましょう。

○高水分サイレージの場合
乾物給与量が不足しないように留意します。低水分の粗飼料と組合せてもよいでしょう。

○酪酸発酵している場合

①不良発酵サイレージの給与を制限し、他の粗飼料やビートパルプなどを併給する
②糖蜜やブドウ糖などを利用する
③乾乳牛への給与を控える、といった対応方法があります。

○NDFが高い場合

残飼の状況や毛づや、糞などを観察し、乳牛の栄養状態や選り食いの有無を確認しましょう。

ビートパルプやコーンサイレージ等嗜好性がよく、消化性の高い繊維質との併給が有効です。

○乾物摂取量を上げる環境

乾物摂取量向上には、エサの組合せの他、水が常時十分量飲める、換気が良いなど、乳牛飼養環境を整える事が重要です。

（平成二七年三月作成）